

令和4年
11月28日

病害虫発生予報 12月号

茨城県病害虫防除所

今年の防除日誌を整理・確認して作業内容を振り返り、
来年のよりよい防除につなげましょう！

< 目次 >

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ：コナジラミ類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

促成ピーマン：アザミウマ類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

【その他の病害虫】

イチゴ、促成ピーマン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

II. 今月の気象予報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

最新の農薬登録内容は、農林水産省ホームページの
「農薬登録情報提供システム」(<https://pesticide.maff.go.jp/>)で確認することができます。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。
茨城県病害虫防除所 Tel : 0299-45-8200
予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。
茨城県病害虫防除所 → [検索](#)



I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ

1. コナジラミ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 11月下旬現在、寄生葉率（本年値 0.4%、平年値 0.01%）、発生地点率（本年値 30%、平年値 1%）ともに平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生が多くなると、防除が困難となるほか、葉や果実にすす症状を生じるため、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤散布は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、気門封鎖剤以外については、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。なお、薬剤散布は、古い下葉を除去してから行うと効果的である。
- ③ ミツバチや天敵を使用する場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

促成ピーマン

1. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 11月下旬現在、寄生花率（本年値 49.0%、平年値 36.7%）は平年よりやや高く、発生地点率（本年値 100%、平年値 85%）は平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速く、各種ウイルス病を媒介するので発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 青色粘着トラップを 10a あたり 200～300 枚設置すると密度低減効果がある。
- ③ 薬剤散布は、薬液が花や果実にもかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ④ 天敵を導入している場合は、影響が小さい薬剤を選択する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	発生量：平年並～ やや少ない	11月下旬現在、平年並～やや少ない発生である。
	ハダニ類	発生量：平年並	11月下旬現在、平年並の発生である。
促成ピーマン	黄化えそ病	発生量：多い	11月下旬現在、平年より多い発生である。発病株はただちに抜き取り、適切に処分する。媒介虫であるアザミウマ類の防除を徹底する。
	うどんこ病	発生量：平年並	11月下旬現在、平年並の発生である。
	斑点病		

II. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 11月26日から12月25日)

気象庁(11月24日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	20	40	40
	降水量	関東甲信全域	30	30	40
	日照時間	関東甲信全域	40	30	30

[概要]

期間の前半は気温の変動が大きいです。

平年と同様に晴れの日が多いです。

<1週目の予報> 11月26日(土曜日)から12月2日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率80%

<2週目の予報> 12月3日(土曜日)から12月9日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または低い確率ともに40%

<3週目から4週目の予報> 12月10日(土曜日)から12月23日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、作用機構分類(FRACコード、IRACコード)の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。
- 5 農薬の使用後は、散布器具やホース内等に薬液が残らないように良く洗浄しましょう。